

五井町

出身力士が相撲を興行

当地域は、江戸時代に入るまで「五位」と呼ばれていました。室町時代の享徳二（一四五三）年前後の興福寺・大乘院関係文書に、同寺の領地「五位庄」として初登場しています。

ところが、時を経ず土地の豪族・越智氏の影響が同地に及んだらしく、文明二（一四七〇）年の文書（寺社雑事記）に「越智郷分：五位庄」とあり、さらに天正五（一五七七）年に至ると「五位庄の年貢を納めてほしい」と、大乘院が越智氏に乞うたらしい文書も残っています。室町時代中期以降の中世は、主に越智氏の勢力下にあったとみられます。

江戸時代に「五井村」と名付けられた当地は、旗本・神保氏の知行地となります。同村内で寛政元（一七八九）年に地元（戸毛村）出身力士・初瀬山の相撲興行があり、近隣からの人出でにぎわった記録も残ります。

明治一五年ごろは戸数一九戸・人口一二四人（町村誌集）の農村で、同一七年前ごろには米・麦・さつまいも・ぶどう・葉タバコ（農産物取調表）を主生産物としていました。明治二二年に真菅村の大字となり大正・昭和時代を過ごし、昭和三一年に創設の檀原市に合併されて「檀原市五井町」となりました。